

2013年7月25日

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション 広報部

Benesse こどもちゃれんじ×MIT メディアラボ
iPad とアナログのブロックを合わせて使う幼児向け教材
「Tangiblock」で、新しい遊びと学びを一緒に考えよう。
アプリコンテスト参加者を2013年7月29日(月)から募集開始

株式会社ベネッセコーポレーション(本社岡山県岡山市 代表取締役社長 明田 英治)の「こどもちゃれんじ」は、開講25周年を記念して*「MIT(マサチューセッツ工科大学)メディアラボ」協力のもと、デジタルとアナログが融合した、iPad と合わせて使う学習ブロック**「Tangiblock」(タンジブロック)を開発しました。「こどもちゃれんじ」は、タブレット PC を利用したデジタル時代の新たな幼児向け教材として「Tangiblock」の導入を目指しています。

このたび、全国のアプリ開発者・クリエイターを対象に「Tangiblock」の可能性を広げるアプリ・アイデアを募るアプリコンテストを開催します。同コンテストには、幼児向けアプリ開発のノウハウや、アプリのアイデア着想法についての有名講師のセミナーが含まれ、参加者のスキルアップを支援し、幼児向けアプリ市場の質の向上を目的としています。



<アプリコンテスト概要>

- 企画名称: Tangiblock Developer's Program
 - 賞金: 総額 70 万円
 - 参加募集期間: 2013年7月29日(月)～2013年9月30日(月)
※募集終了後、10/27 セミナー実施、11月中旬～12月末までに「Tangiblock」をお届け～2/25 までアプリ応募、4/19 に結果発表(予定)。
 - 募集部門: ①アプリ部門、②企画部門
 - 参加費用: 「Tangiblock」本体 50 個と、アプリ開発キット、10月セミナー、コンテスト参加費含み¥32,500(税・送料込)
- 申込み: URL <http://shimajiro.jp/tangiblock> ※7/29 より

*「MIT メディアラボ」…米国マサチューセッツ工科大学建築・計画スクール内に設置された、主に表現とコミュニケーションに利用されるデジタル技術の教育研究を専門としている研究所です。

*「Tangiblock」…iPad と 50 個のブロックを合わせて、ひらがなやアルファベット、数字はもちろん様々な用途で利用することができ、今までにない遊びや学びのスタイルを生みだせます。

<「Tangiblock」 イベントのお知らせ>

8月2日(金)・3日(土)に「Tangiblock」タッチ&トライイベントをアップルストア銀座店で実施します。コンテスト参加希望者と、記者の方向けに開催いたしますので、ぜひお越しください。

(イベント概要)

- 日時 :平成 25 年 8 月 2 日(金)10:00-13:00 /8 月 3 日(土) 10:30-13:00
- 会場 :Apple store ginza5 階会議室 ■ 定員: 各回 20 名限定
- * 取材受付時間 2 日 10:00、11:00、12:00/3 日 10:30、11:15、12:00
- * 参加希望の方は、「Tangiblock」特設サイトから <http://shimajiro.jp/tangiblock> ※7/29 より

*ベネッセコーポレーションは、「MIT メディアラボ」の研究コンソーシアムに 2010 年 11 月から参加しています。これから激変していく国際社会の中で未来を生き抜く子どもたちに求められる「新しい学び」とは何か、そしてその学び方はどうあるべきかについて、「MIT メディアラボ」と議論を進めています。

【お問い合わせ先】

本イベントの取材を希望されるかたはこちらにご連絡ください。
株式会社ベネッセコーポレーション 広報部 藤田、三田村、坂本、西沢
TEL:03-5320-3503 FAX:03-5320-1677

【参考資料】

「Tangiblock」の特長

1. 50 種類の ID を認識できる



50 個のブロックひとつずつに違う ID を組み込むことで、ひらがなの 50 音にも対応可能。特許申請中の技術です。

2. 座標と向きを正確に認識できる



どこにどう置いても正しく認識できる高度な認識技術により、「ひねる」などのアクションを加えることも可能に。

3. 2 個同時に認識できる



ブロックひとつで使うことはもちろん、同時に認識させることができるから、活用方法の幅が広がります。

「Tangiblock」を使ったデモアプリの例

デモアプリ「ひらがな」



四角いマスに好きなブロックを2つ選んでのせると、選んだ文字の組み合わせに合わせて、イラストや音声が出るアプリ。手を動かして新しい言葉に触れ、習得する新しい学びの形です。

デモアプリ「ありの行進」



画面上のどこでも、「あ」と「り」を置くと、「あ」から「り」に向けて、ありが行進。ブロックを動かすと動かした方向にありがついていき、スムーズな操作性を実感できるアプリです。

こちらでご紹介したデモアプリは
Youtube でご覧いただけます。

YouTube